IV-JAPAN

NEWS【NO.27】2016.7.31 発行

目　次

1ページ…タムスア村パイプライン事業　2ページ～3ページ…ネパール地震支援事業、日ラオ友好 60周年記念映画に寄せて
4ページ…JICA事業（ビエンチャン職業訓練）　5ページ…カノック奨学金ドナー紹介、理事紹介
6ページ～7ページ…幸子のラオス便り、千客万来　8ページ…寄付者一覧、その他

シェンクアーン県タムスア村に水が来た

伊藤裕子様(当会理事)からのご寄付で長年水不足で困っていたタムスア村に待望の水が来てみな大喜び。6月17日に譲渡式が村の集会所で行われました。前日は朝6時にビエンチャンを出発して陸路で約9時間かかってシェンクアーン県都のポンサワーンに到着。直ぐに350キログラムの荷物をほどき、埼玉トヨペット様ご寄贈の非常食230キログラムをタムスア村の53世帯に公平に分配するため53個の袋づめを行いました。作業を終えてホテルに帰り、旧知のタムスア村出身のラオス国会議長のパニー女史と会い、当会は同村に15年以上支援を続け、水不足の村に**水パイプライン**をひき、明日はそのハンドオーバーを行うことを報告しました。

当日のハンドオーバー式（上写真左）には村事務所前の広場に小学校の全生徒が集まり、野の花の花束で歓迎してくれました。就学前の子どもも含めて、集まってくれた村民全員に非常食のクッキーとパンを配り、皆その場で缶を開けて頬張っていました。めったに手にできないお菓子です。（上写真右）

譲渡式には県教育局次長、ノンヘト郡教育長、村長、小学校長はじめ村民が大勢参加し、村長は「念願の大事業を支援してくれてありがとう」目に涙を浮かべながら「もう乾季も水の心配はないし学校のトイレも使える」と挨拶をしていました。式典後に斎藤加代様、河島明子様、中島芙美代様から寄贈された中古衣類140キログラムも贈呈しました。村の共同水場2カ所と小学校まで敷設された水パイプラインを見学、早速シャワーを浴びる村民もいました。今後の課題は小学校4年と5年の教室の再建です。藁ぶき屋根と竹でできた壁はもう朽ちる寸前でした。（関連記事：6ページ「幸子のラオス便り」）

村に水が来ました

藁葺き屋根の教室

ネパール中部地震被災者支援延長事業（その１）

2016 年 4 月 1 日より 6 月 30 日まで 91 日間に渡り、ジャパン・プラットフォーム(JPF)[注]から助成金約 1 千万円を受け、ネパール国ゴルカ郡タクマズラクリボット村（タク村）で被災者支援を行いました。これは 2015 年 5 月に実施した緊急支援の継続事業です。

タク村は首都カトマンズからローカルバスで 8 時間、徒歩 3 時間の距離にあります。震源地に非常に近かったため住居に多大な被害を受けましたが、住居が密集していなかったため死者は有りませんでした。村内 701 世帯中、政府のエンジニアによって居住の安全認定がされた建物はヘルス・ポストのみで、その他の政府建物・家屋は 0 軒です。住民は倒壊する恐れのある家屋に不安を抱えながらも、家畜小屋で家畜と共に生活を続けて居住していますが、住民に対して政府による住居修復支援には時間がかかる見込みです。住民からのニーズ調査では、復興につながる研修を受けられる所、安全な集会所が必要で、早急には各戸への保健衛生研修が必要という事でした。村の共同水場 3 カ所の整備と全戸へのトイレ建設はイギリスの団体が終了していました。

2015 年震災直後のタク村での IV の活動は緊急支援品（蚊帳、石鹸、タオル、毛布等）を全 701 世帯（4500 人）に配付しました。今回の延長支援事業は女性研修所を建設して震災被害者の女性のエンパワーメントを支援し、加えて全住民対象の保健・衛生の研修を実施して、保健衛生環境を整え、震災からの立ち直りを促進する事でした。

事業の概要：

1) 女性研修センター（Woman’s Learning Center: WLC）の建設、女性が保健・衛生・防災研修・家屋の修復方法等の研修を受けられる事、またすべての住民が自由に集会・冠婚葬祭・研修等を開催することができ、なおかつ震災支援の情報を適時に収集できる研修室 2＋事務室＋トイレのセンター建設。

2) 一般的な保健・衛生教育

- 各戸の洗い場整備（各戸に水道はなく、共同水場からバケツで各戸に水を運びます。それを庭の隅で食事用意、食器洗い、洗濯などに使っています）（701 世帯から各 1 名参加して保健衛生の研修を受け、水場建設のためのセメント 1 袋、水タンクを受け取り各戸で建設します）
- 石鹸作り（石鹸は高いため通常は草木灰で食器洗い等をしています。ローカルで入手できる材料で作れる石鹸作製方法を学び、衛生環境の向上を目指します （トレーナを 12 名養成して、住民 200 名に技術を移転しました）

これらの事業は 6 月末にすべて完了しました。女性研修センターは現地 NGO にハンドオーバーされ、管理・運営と今後の研修計画等が住民内で合意されています。

―住民の声から―

1. 女性研修センター建設

- 現地 NGO の代表タクさん:安心･安全に使える建物が出来て住民がどれだけ感謝しているか分かりません。出来る前から研修、集会の予約が入っています。このセンターの運営についてをしっかり皆で話し合って今後大切にしていきます。ありがとうございました。
- 女性信用組合長ジョティさん:震災があり今まで女性が集っていた建物の内壁が崩れ安全が確保できなくなり、使えなくなりました。皆本当に気落ちして、「今後はどこで色々な情報を集めたり、子供の保健の事、ローンの相談などをしたらよいのか」と心配していました。余震への恐怖と生活への不安で一杯でした。こうして女性研修センターが完成して、心から感謝しています。

（　完成式の様子。農繁期の為住民約 100 名が完成を喜びました。右・WLC 全体写真）

2. **保健衛生研修・水場穿設**

- 住民ノルマヤさん：庭の隅で食器を洗ったり、遠い水場で洗濯をしたり大変でした。庭の隅がいつもジメジメしていました。研修を受けてセメントとタンクを貰い、水場の建設が出来、自分の家が清潔になりました。とてもうれしいです。今までこんな支援はありませんでした。
- タク村の村長：各戸が自分のアイディアを生かして水場の建設をしました。目に見える援助で、住民が喜んでいる事が良く分かります。ありがとうございました。

（左・セメントとタンクを受け取る住民　。中・建設中の水場。右・ジャパン・プラットフォームからの視察と水場完成式）

3. **石鹸研修：**

- トレーナーのサノさん：石鹸がこうやってローカルで手に入る材料で出来るのにはびっくりです。苛性ソーダをどれぐらい入れるのか計算が難しかったけど、出来るようになりました。楽しいです。
- 住民ビノットさん：石鹸が気軽に手に入るようになれば清潔にできます。おもしろいです。
  （注）：JPF 政府（外務省等）、経済界（経団連等）、NGO がパートナーを組み、国内・海外の緊急人道支援・国際援助活動を実施している団体）

石鹸作り ⇕

日本ラオス外交関係樹立 60 周年記念作品　映画「サーイ・ナームライ」に寄せて

前略　5 月 16 日「サーイ・ナームライ」試写会に行ってきました。日本・ラオス国交 60 周年ということで駐日ラオス大使のケント氏のご挨拶（その後天皇陛下との昼食会に出席のため中座）等のあと上映となりました。上映後、熊沢誓人監督より映画には①絆（バーシー、祭を主とした結びつき）②子ども（未来、人と人を結ぶ架け橋）③お互い様（ボーペンニャンという言葉で表現）という 3 つをテーマにしたとのお話がありました。また主演の井上雄太さんが 3 ヶ月ほどでラオ語を習得したときのご苦労話など、好感の持てるさわやかの印象のお話もありました。

映画を観た私の個人的な感想ですが、豊かさに対する価値観の相違、ダムができることによる漠然とした不安や恐れなど…約 2 時間の放映に対して少し未消化な部分が感じられましたが、ラオスの青い空、美しい緑、赤い土の道…。ロケーションによる風景は美しく、素朴で人々の優しさや愛情は不変のテーマとして私達見る者に伝わってきました。

全般に多少演技のぎこちなさはありましたが、さすがバーシ―の部分は普段していることとあって自然で感動的でした。この映画が全国で配給され、ラオスびいきの私としては好評であることを心から念じています。追伸・受付をした時、森　卓様より「IV-JAPAN の方ですか？」と声を掛けられました。ラオス在住 15 年だったそうでこの映画製作に当たりプロデュース・コーディネイトされたそうです。草々　（横山三重子）

ビエンチャン職業訓練《調理・美容・縫製》

— JICA 草の根パートナー事業 —

【リーダーシップ研修】

現在、『JICA 草の根技術協力事業』で実施している職業訓練支援プロジェクトでは、事業をラオス政府へとハンドオーバーした後も、彼ら（ラオス政府）のみで持続可能な職業訓練センターが運営できることを目指し、センターを運営する人材の能力育成・開発を進めています。そのための活動として、5 月 22～25 日の 3 日間、ラオス国内の企業や政府機関・国際機関のスタッフを対象に組織強化のための人材育成・開発に役立つ各種トレーニングを提供している TACDO コンサルティングセンターで「How to be a good leader and manager（良いリーダー・マネージャーになるためには）」というトレーニングを実施しました。今回のトレーニングの主旨としては、職業訓練センターのマネージャーや調理・美容・縫製各分野のトレーナーが 「良いリーダー・管理者」として何が必要かを学んでもらうことが目的です。今回はマネージャー・トレーナーに加え、IV-JAPAN ラオス人職員や木工事業のトレーナー・職員、その他団体から合計 20 名が参加しました。

課題について意見を出し合う参加者たち

グループディスカッションの結果を発表するトレーナー

講師によるレクチャーに加え、4、5 人ずつのグループに分かれて課題について問題点・解決策を話し合うグループ活動、参加者の緊張をほぐすように簡単なエクササイズなどもあり、内容のぎっしり詰まったトレーニングでした。普段とは異なる環境で新たな知識を得ることができ、刺激と学びの多い 3 日間となったことと思います。それぞれが今後の業務に今回のトレーニングで学んだことを生かし、良いリーダー・マネージャーとして頑張ってくれることを期待しています。

ラオス・ビエンチャン木工職業訓練

— 地域経済活性化特別枠 —

訓練中の様子

【第 6 期初級コース開講】

4 月 25 日より、本事業最終年度の第 6 期初級コースがスタートしました。今回はラオス全 17 県の学校制度外教育センター（NFEC）を対象に訓練生の募集を行い、22 名が入学しましたが、4 名が諸事情で訓練を断念し、初級コースを修了したのは 18 名でした。今期はスタッフが一丸となって毎日訓練内容を調整し、最高の指導が行えるよう努力したため、訓練生も目覚ましい進歩を遂げました。6 月 30 日のスタディツアーでは、ラオス家具組合カンパイ会長の KPG 工場の充実した設備に目を輝かせ、ゴンサー工場では同工場に就職した 4 期上級コース修了生達との交流もしました。異なるタイプの工場を実際に自分の目で見たことで見識が広がり、木工への意欲も高まったと思います。またスタディツアー中、2014 年にハンドオーバーしたナーサイトン職業訓練センターも訪問し、異なる分野の訓練生とも交流しました。初級とはいえ、今回はトレーナーの弛まぬ指導と訓練生の真摯な製作により良い家具ができました。7 月 22 日の修了式当日は、家具の展示販売も併せて実施しましたが、展示即売会参加者は、僅か 3 ヶ月の訓練で製作された家具の高品質さに驚いていました。8 月 1 日に開講する中級コースには、昨年度の第 5 期初級コース修了生も数名入学する予定です。5 期生と 6 期生が中級、上級コースで切磋琢磨し、技能も人間性も大きく成長することが期待されます。

第 6 期初級終了式

木工家具展示即売会

（プロジェクトマネージャー飯村　浩）

カノック奨学金ドナー紹介

ガールスカウト千葉県第 45 団代表　北嶋扶美子（千葉県我孫子市在住）

千葉県我孫子市で 1976 年からガールスカウト千葉県第 45 団として活動を続けて 40 年になります。子ども達が活動を通じて自ら考える力を育み、可能性を伸ばすことを目指しています。

IV－JAPAN のドナーになったのは 25 年位前です。その頃、この活動のタイのワークキャンプにレンジャースカウト数名が参加しました。帰国後に彼女たちがお世話になった方々や体験した生活の報告を聞き、少しですがアジアの現状を知ることが出来ました。自分たちの生活を振り返る機会になりました。45 団でもできることと、ドナーになることを決めました。

事務局から奨学生のお手紙が届くとスカウトや保護者に紹介しています。そしてクリスマス会では、お手紙を展示して「カノック献金」や「奨学生」の話をします。その後、ブラウニースカウトがきれいに飾った籠を持って、スカウトたちや保護者やリーダーの心のこもった献金をいただきに回ります。小さなことですが「私たちがガールスカウトとして『カノック献金』をできることに感謝して続けましょう」と大事にしてきました。

スカウト達は、クリスマスに献金をする時に、どこかの国の友人のことを思うことが出来ます。どこかで頑張っている誰かの事を思いやる気持ちを持って欲しいと願います。カノック献金は、私たちに大切な心をプレゼントしてくれます。

小学 1 年生から高校生 3 年生のスカウト、大学生のリーダーなど若い世代がアジアの若者への理解を深める貴重な活動です。一人ひとりが、アジアの一人として世界の一人としての思いを持つことが出来るように望んでいます。長い間続けて来ることが出来て嬉しく思います。これからも団活動の一つとしてカノック献金を継続していきます。

（献金中の子ども達⇒）

理事紹介

金野　喜久子　　―IV-JAPAN との関わり―

私と IV-JAPAN との関わりは、15 年程前に始まりました。その当時、勤務していた中学校でボランティア教育の担当をしていたのですが、国際的 NGO との連携による活動を計画したことがキッカケとなり、IV-JAPAN（当時は国際的ボランティアの会）のスタディツアーにも参加しました。

初めて訪れた 2001 年頃のラオスは後発開発途上国であり、経済発展が遅れ、国の教育システムも整っていないという印象でした。教育を受ける機会のない人々は少なくなかったと思います。スタディツアーでは、比較的多くの場所を移動することができ、大変有意義な体験をすることができました。

2013 年に、 個人的な研究目的があってラオスでフィールドワークを行いました。その際は、IV-JAPAN に御協力頂き、特に、「ナーサイトン職業訓練センター（縫製・調理・理美容の初級・中級コース）」の関係者の皆様にはお世話になりました。ナーサイトンの事業は、『ビエンチャン都郊外の貧困地域において、女性・青少年の生活向上及び経済的自立を促進する』ことを目標としていて、IV-JAPAN が支援していました。

その訓練センターの卒業生を訪ね、村を回って調査をしました。その結果、卒業生の暮らしている環境や一人ひとりの思いに触れることができ、また、仕事をしている場面の見学もしました。例えば、市場で美容院を開業しているある卒業生は、学歴は小学校卒業です。訓練センターで知識や技術を習得することによって充分な収入を得ることができていました。またある卒業生は、自宅の一部にミシンを置いて注文を受けていました。（写真。右筆者）腕もよく繁盛しているようで、高機能ミシンが欲しいと話していました。ローンを活用して自宅を美容院にしたいとか敷地に食堂をつくりたいと話した人もいました。この事業は、育児との両立も可能となるように、女性のニーズに応えていました。また、村以外の友人ができ交友範囲が広がったという人もいました。コミュニケーション力を高める機会にもなっていたと思います。

ラオスの経済発展は順調で、初めてラオスに行ったころと比べると豊かになり、ビエンチャンの道路は車で溢れています。しかしその恩恵は一部にとどまり、国民全体の格差の解消につながっていないといわれています。教育の質という点でも多くの課題があります。日本の私たちがその解決のために協働することによって、私たちにも学ぶことがたくさんあるはずです。そのような姿勢で、今後も関わっていきたいと思っております。

幸子のラオス便りNo. 33

「ラオスの山岳民族モン族について」

ラオスには政府発表で 49 民族あると言われていますが、国民の約 60%を占めるのが平野に住むラーオ族で、北部・中部には山岳民族のモン族が多く、最北にはアカ族が多く、南部はカトゥー、タリアン等が居住しています。

ところで当会はラオスに 1994 年から中部山岳地帯のシェンクアーン県で職業訓練と識字教育事業を開始しました。シェンクアーン県はビエンチャン都より約 400 キロの北方に位置して、飛行機で 40 分、陸路は車で約８時間くらいかかります。ベトナム国境に近いノンヘット郡タムスア村は国道から山の中へ車で約 30 分入ったところにあり、モン族が 100%の村で、長年当会が支援を続けています。タムスア村の世帯数は 53 世帯、人口は 270 人、陸稲とトウモロコシ栽培で自給自足的な生活をしていて、主な現金収入は養豚、養鶏、養牛、養山羊です。動物銀行が当会の最初の事業ですが、日本の方には動物銀行って何？と、思われるでしょうね。村民に豚や山羊をペア―で貸し出して、飼育後、子どもで返済するシステムです。タムスア村にも豚や鶏を貸し出しました。タムスア村を選んだのは、村から幹線道路へ行く道を村人の総力で建設し、従来徒歩しか手段がなかった山道をバイクで 25 キロ先の郡都まで行けるようにしました。村には店屋がないため、調味料や衣服などは郡都や 10 日に１回開催される市で買い物をします。村の自助努力に感動して支援を決めました。

6 月 17 日に事業完成譲渡式（ハンドオーバー）に出席するためにシェンクアーンへ行きました。事業は「水道パイプライン敷設事業」です。11 月から 4 月までの乾季には十分な水がなく、70 名の児童が通う村に唯一ある小学校のトイレも水不足のため使えないのです。そこで長年ドナー（資金提供

者）をさがしておりましたら、毎年多額のご寄付をくださっている伊藤裕子さんが「息子の子育ても終わり、息子には財産を残さず自立してもらう」とのことで、200 万円をご寄付くださいました。それで村から 7 キロ先の山に新たな水源を見つけ、村人の労力で村まで水パイプを引くことができました。

実はまったく偶然に昨年 9 月に当会ラオス事務所に入職したラオス人がこのタムスア村の出身者でした。この青年トウィのお父さんがこの村でシェンクアーン県都にある高校に初めて行った人です。村に電気が来たのは 5 年前くらいですから、40 年前は勉強時間も限られている中、県内で一番の成績優秀（全 8 科目が１番）で政府奨学金をもらってビィエンチャンの首都にある大学にも行きました。オーストラリアの大学院にも奨学金を得ていっています。その時家族も一緒で、子どもたちは皆優秀です。いかに教育が大事かの好例です。

この村ではモン語が日常語で、ラーオ語を理解するのは中学校へ行ったことのある人だけです。村から一番近い中学校は 6 キロも離れていますので、毎日歩いて通うのは大変です。

モン族の女性の衣装はとてもきれいです。藍染のプリーツのスカートが特徴で、それに赤色のクロステッチの刺繍が施され（実はこのクロステッチは失われたモン語だったとトウィから聞きました）、そして黒色の前掛けをします。鮮やかなピンクや緑色の帯２本を腰に巻きますが、後ろには枕を入れます。これは籠を背負うためのストッパーの役割をするのだそうです。電気がないのにどうやってプリーツにするのか、不思議でしたが、プリーツを折って、糸で縫い、太い木綿糸で巻いていたのを市場で見ました。娘が生まれると直ぐプリーツを作り、嫁に行く年頃になると糸をほどいて巻きスカートにします。十数年も巻いているので、プリーツは取れませ

ん。頭にはターバンを巻きます。同じモン族でもスカートの代わりに黒いズボンをはく人もいます。お正月のようなハレの日には胸いっぱいに銀色のネックレスで飾ります。

お正月はモン族最大の祭りで、日頃はきつい山仕事ですが、お正月だけが楽しめるときです。盛装した青年男女が２列になり、男性は好きな女性の近くに陣とり、古い布で作ったボールをお互いに投げ合います。また闘牛大会もします。タムスア村は闘牛飼育でも有名です。精霊信仰の民族ですので、お正月は村の長老が生きた鶏の首を切って、頭上で回し、その血が村民の身に降りかかると旧年の厄祓いになり、村人全員がこの儀式に参加し、新年を迎えます。お正月の習慣も日本と似ていて、餅をつき、食べ方は焼き餅でお砂糖をつけてお菓子として食べます。形は丸く直径 20ｃｍくらいで厚さ 2ｃｍくらいのおせんべい型です。大みそかまでに家の大掃除を済ませます。ちなみにお正月は陰暦により、収穫の終わった 11 月～12 月の満月に行われます。

モン族は中国から南下しているので、色も白いし、顔は日本人に似ています。

お話をドナーの伊藤裕子さんに戻しますと、今回のご寄付は 5 回目で合計 1800 万円になります。生活は贅沢をせず山登りが趣味です。とても感謝です。

千 客 万 来

【衆議院議員団】2016 年 5 月 5 日

衆議院議員４名（國場幸之助議員，武井俊輔議員，村井英樹議員，小林史明議員）の議員団が、東南アジア訪問期間中、日本の NGO による開発協力の現場への理解を深めるため、当会の支援する職業訓練センターを視察されました。当初は施設及び授業見学のみの予定でしたが、上級コース OJT 美容院でシャンプーとフェースマッサージも体験されました。連日の過密スケジュールの中で、ほっと一息ついていただけたようです。最後は、当会からご用意させていただいた緑茶とおはぎを召し上がっていただきながら、ラオスの人材育成についてなど、お話をしました。(左写真)

【麗澤海外開発協会】2016 年 5 月 17 日

麗澤海外開発協会の竹原副会長と大河内事務局長が、IV-JAPAN ラオス事務所を訪問してくださり、ご寄付をいただきました。ありがとうございました。（右写真）

【梅田美容商事株式会社】2016 年 7 月 1 日

大阪で美容院経営など美容関連のビジネスをされている梅田美容商事株式会社の中村様が訪問してくださいました。来年の２月頃に、日本の美容師さんを連れて、ラオスの美容院や美容関連の職業訓練機関等を訪問するツアーを企画されており、その一環として当会への訪問を希望され、何か協力してイベントができないか、ということでした。当会の活動について概要を説明させていただき、OJT 店舗をご案内させていただきました。今回の訪問や話し合いの結果をふまえ、ツアーが有意義なものになるよう企画を進めていきたい、と仰っていました。

お　知　ら　せ

・「ＮＨＫラジオ深夜便」　～当会代表　冨永幸子によるラオスレポート～
次回放送は 9 月 30 日（金）の深夜（10 月 1 日（土）午前 0 時 10 分頃）
「ラオス・ファッション・ウイーク」について当会冨永代表がお話しする予定です。皆さまどうぞお聴き逃しのないよう！

・アジア文化理解講座　ーフィリピン料理教室ー　皆様ご一緒にいかがですか
日時：9 月 24 日(土)　午前 9 時～12 時　場所：さいたま市桜木公民館調理室
メニュー：アドボ（フィリピンの肉じゃが）、スープ、デザート等
問合せ先：電話、FAX、メールのいずれかで下記 IV－JAPAN 日本事務局まで。お待ちしております。

・今年度より IV－JAPAN 会計業務を「さいたま新都心税理士法人」に委託することになりました！
さいたま新都心に事務所を構える会計事務所に、2016 年度より IV-JAPAN 会計業務統括を委託しました。専門家による一層の明瞭化、透明化が期待されます。

❤ご協力ありがとうございました!!❤　　—順不同・敬称略—

♡♡カノック奨学金ドナー紹介 ♡♡（2016/4/1 から 2016/7/31 まで）

石井直子、春日　曠、渡久地澄子（5 口）、土屋多賀子、大野宏江（3 口）、copenica、和田冶江、大高　巽
宗像邦司、高見沢啓二、James A cummings、富井伊都子、武井貢士、斎藤雄太、岡庭史子（2 口）、河口道子

❤運営・プロジェクト費寄付者一覧❤

（2016/4/1 から 2016/7/31 まで。5,000 円未満は省略させて頂きます。ご了承下さい。）

RISOVP（12 万 3 千 706 円）、大野宏江（10 万 4 千円）、桜井彰子（5 万円）、麗澤海外開発協会（1 万円）
大高　巽（8 千円）、copenica（8 千円）、田中兄一（5 千円）、JANIC/NGO サポート募金（1 万 1 千 183 円）
JTB 沖縄（＄160）

＜編集後記＞　～事務局員の全くの独り言～
ものは腐りやすいし、汗でべたつくし、これ以上薄着になれないし、「寒い」が良いとこの時期木枯らしを待ち焦がれていたものですが、夏は血圧が穏やかになり（私の場合）、故に身も心も軽やかに、行動範囲は広がり、何だか元気かも知れないと思う今日この頃です。
皆様におかれましてはこの暑い時期いかがお過ごしでしょうか。どうぞ体調管理宜しくお願いいたします。
IVNEWS 今号もご一読いただけますと幸いです。（事務局　井藤）

＜随時会員を募集しています＞

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を宜しくお願い致します

① 奨学金ドナー　年 1 口　**12.000 円以上**
② 国際協力費又は運営費ドナー　★個人 年 1 口　3.000 円以上　★団体及び法人 年 1 口　10.000 円以上

・申込方法（銀行振込の場合は振込された方の氏名と会員番号の下 4 桁の明記をお願い致します）
郵便振替　：（口座番号）　00140-5-537168　**（加入者名）IV-JAPAN**
銀行振込　：埼玉りそな銀行浦和中央支店　（※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。）
（普通）　口座番号:5038052　名義人：（特非）国際協力 NGO・IV－JAPAN

認定・埼玉県指定　特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN

日本事務所　開所時間 午前 10 時～午後 6 時
〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2
シティヒルズ 101
TEL:048-622-8612　FAX:048-622-8612
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
http://iv-japan.wix.com/iv-japan

ラオス事務所
P.O Box7920 Vientaine, Lao PDR
TEL/FAX ： +856-21-316047
携帯電話；+856-20-55515122
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com

タイ事務所
Continental Mansion 34/7 Soi Lertpanya
(Ra Bangkok 10400 Thailand
E-mail: valaikorn@hotmail.com

（IV-JAPAN QR コード）　（アカウンタービリティセルフチェックマーク）